



## 飲食店向け 食品ロス削減ガイドブックを発行



まだ十分に食べられるのに売れ残りや食べ残しなどにより廃棄されてしまう「食品ロス」日本では平成28年度推計で**643万トン**もの**食品ロス**が発生しており、このうち**352万トン**が事業所から排出されています。なかでも外食業界では**133万トン**と事業所から排出される食品ロスの**38%**を占めています。豊中市においても事業所から排出される可燃ごみの**約40%**を占める、食べ残しや調理くずなどの生ごみの削減が大きな課題となっています。

各店舗の取り組みを紹介していますので、参考にいただき、食品ロス削減に**トライ**してください。

**くら寿司**では、食べ残し対策でシャリの量が選べる「シャリ♡プチ」などの「糖質オフメニュー」



**びっくりドンキー**では、お子様向けに残さず食べる「もぐチャレ!!」



**いち凛(中桜塚2丁目)**では、食材廃棄削減対策でランチメニューを1種類に限定。また、野菜など無駄なく調理



**かみかわ珈琲焙煎所(曽根東町5丁目)**ではマイボトルの推奨



YouTube「とよなか環境TV」  
『大将ちょっと待って!』  
～飲食店で出来ること～  
配信予定  
※飲食店向け食品ロス削減  
ガイドブックの紹介となります。



※豊中市のホームページからダウンロードできます。

飲食店向け食品ロス削減ガイドブック [検索](#)

【バックナンバーについて】  
「Renews」はバックナンバーも含め  
市ホームページからもご覧いただけます  
市ホームページの検索機能で「Renews」で検索！

【発行】 豊中市 事業ごみ指導課 一般廃棄物指導係 TEL06-6858-2278  
Mail jigyougomi@city.toyonaka.osaka.jp  
【協力】 豊中商工会議所

## スペシャルインタビュー



大栄環境株式会社  
営業本部 関西営業部

土屋 裕平さん

**インタビュアー(イ)**この度は事業系一般廃棄物管理責任者研修会の講師、大変にありがとうございました。改めて、大栄環境株式会社はどういった会社でしょうか？

**土屋さん(土)**「持続型資源循環社会」の実現を目標に、収集・運搬から、中間処理、再資源化をはじめ、最終処分、地域貢献まで、一貫した廃棄物処理・リサイクル事業を展開しています。また、当社の経験、ノウハウを基に行政焼却施設の設計、建設から運転管理の委託まで事業の拡大を行っております。近年は森林保全事業として、日本の民間企業で10番目の保有数を誇る山林保全を手掛けております。

**(イ)**循環型社会形成に向けてどのようなことが必要でしょうか？

**(土)**大事なものは「資源循環率の向上」だと思います。近年の中国の廃プラ規制や将来予測される国内廃棄物の逼迫などの課題に対して柔軟に対応する必要があります。今まで中国に輸出可能であったプラ類の分別を徹底してリサイクルを行い、再生品の需要と供給が一致するようなフローを国内で構築する必要があると思います。

**(イ)**排出事業者の廃棄物管理の責務について教えてください。

**(土)**「排出事業者責任」という言葉があるように、無許可業者に委託するなどの不適切な選定を行った場合、排出事業者側にも社名公表や罰則等が課せられるリスクがございます。処理業者に全て一任するのではなく、委託基準の把握、チェックリストを用いた現場確認など、自らが委託を行う廃棄物を把握し、処理業者に情報提供を行い適切な業者選定を行う義務がございます。

**(イ)**最後に事業者の皆さんに一言お願いいたします。

**(土)**パリ協定、脱炭素化、地域循環共生圏、SDGsなど、世界的にも「サステナブル(持続可能な発展)」というワードが共通語となっております。

飛躍的に変化する世界情勢に、当社としても時代の一步先を見据えながら、次なる「環境づくり」を実現する為、邁進してまいります。事業者の皆様におかれましても、環境社会の実現にむけて一丸となって取り組んで頂ければと、僭越ながらお願いいたします。

**(イ)**今回はインタビューにご協力いただきありがとうございました。



令和元年度 事業系一般廃棄物管理責任者研修会の様子

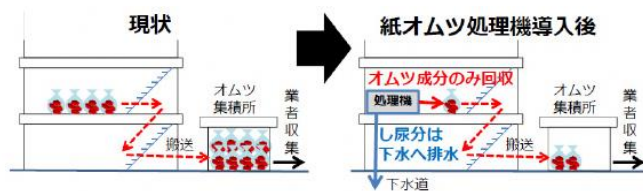
## リサビニュース

し尿と紙オムツ材料を分離・処理する機械  
介護負担軽減、ごみ問題解決めざす



LIXIL(東京千代田区)の「破碎・回収型紙オムツ処理による介護負担と環境負荷低減」プロジェクトが、国土交通省が募集していた「平成30年度第2回サステナブル建築物等先導事業(次世代住宅型)」に採択された。

このプロジェクトは、高齢者施設に破碎装置とし尿の分離回収装置を組み込んだ紙オムツ処理機を導入するというもの。まず使用済みの紙オムツは、破碎装置により3分の1以下に減容減量、続いてそれを分離回収装置によって、し尿と紙オムツ成分に分別する。そしてし尿は下水道に流し、紙オムツ成分はごみとして回収する。これにより高齢者施設で働く方への負担を軽減すると同時に紙オムツ処理における環境負荷の低減を目指す。令和3年度(2021年度)までには実証を行い、実用化のめどを立てる予定である。



プロジェクトイメージ図

## 事業系一般廃棄物管理責任者見学会を実施

令和元年(2019年)10月16日(水) おおさかATCグリーンエコプラザ(大阪市住之江区南港北2-1-10 ATCビルITM棟11階)にて施設見学会を実施した。環境ビジネスに取り組む企業・団体の最新情報を紹介することを目的とした常設展示場で環境問題全般について学んだ。



令和元年度 事業系一般廃棄物管理責任者見学会の様子



## 編集後記

先日、食品ロス削減について、愛知県碧南市の丸繁製菓という会社が紹介されていました。ここはソフトクリームやモナカ等のコーンを製造している会社で、食べられる箱型容器『イトレー』を販売しています。イトレーは主に祭りやイベント時に使用するもので、焼きそばやたこ焼きはもちろん、カレーライスやかき氷等の汁物にも対応しているそうです。イベントでいつも問題になるのが大量の使い捨て容器です。イベント主催者の皆さん、容器まで食べてごみを発生させない『イトレー』を一度使用してみたいかがでしょうか。